

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

第22回 会員大会

若い力と未来を描く、 2030年に向けた一歩に



「第22回」の大会はダブルピースで

国内外で広がる 支援活動

大会は開会礼拝、続いて
て時田敏雄会員部運営委
員長からの、能登支援の
ために物産品購入を呼び
かけるメッセージでスタ
CAの専門学校生による

総主事より、国内外の支
援活動を主にした202
4年度の東京YMCA活
動報告がありました。外
国にルーツのある子ども
のためのクラウドファン
ディング達成、東京YM

5月24日、「第22回東京YMCA会員大
会」が山手コミュニティセンターおよび
オンラインにて開催され、会員・ボラン
ティアなど93人が参加しました。

表彰と感謝の ひととき

能登支援活動、ウクライ
ナの子どもの心のケア
プログラム支援など、多
岐に渡る支援の取り組み
が報告されました。

続いて2025年度会
員部運営委員の推挙があ
り、表彰では名誉会員に
吉田明弘さん、香取良和
さんが推挙されました。

ボランティア表彰では、
長年にわたり会員活動な
どを牽引された小原武夫
さんと4人のユースボラ
ンティアが受賞（Ⅱ2
面）。出席された受賞者
からの一言では、吉田さ
ん、小原さんのユーモア
のあるコメントに会場が
沸き、ユースボランティ
アが語る「ボランティア
で得たこと」に、YMCA
活動の根幹を感じ入る
ひとときとなりました。

中期計画 「VISION 150」と、 力強い決意

2030年の東京YM
CAを見据えた中期計画
の発表では、上田晶平中
期計画策定委員長より

「子ども未来応援サポ
ーター」が紹介され、支援
の輪を広げていくため
に、情報拡散協力のお



自然と笑顔になるキャンプソング



会場前の能登物産品販売ではたくさんの方が
買って応援してくださいました

「VISION150」希
望を耕し未来を紡ぐ」
に込められた思いと今後
の歩みについて、星野総
主事より各事業部の3カ
年計画について説明があ
りました。また、生成AI
を活用した「2030
年の東京YMCA」を上
映。委員からは5つの行
動指針について、どのよ
うに「私たち」が実現し
ていくかの思いと決意が
語られました。発表を受
けて会場からは、「若者
が中心となる活動を応援
したい」「YMCAの活
動がもっと社会や若い人
たちに知られるようにな
ってほしい」「会員とし
て、どう支えていくこと
ができるだろうか」との
声があがりました。
シヨットアピールタイ
ムでは、新たに始動した
「子ども未来応援サポ
ーター」が紹介され、支援
の輪を広げていくため
に、情報拡散協力のお

フリーダーを中心に『陽
のあたる道』『両手を広
げて』を歌唱。選曲に「明
るい気持ちになること」
「これから 私たちがや
っていくぞ」という決意」
を込めたことが話され、
会場は温かい一体感に包
まれました。
今回の会員大会は、2
030年に向けたビジョ
ンを共有するとともに、
若い力と多くの思いがひ
とつになり、希望に満ち
た未来のYMCAを感じ
させる、力強い一日とな
りました。（広報室）

名誉会員

「名誉会員」は、東京YMCAの発展に特に貢献のあった、満75歳以上で会員歴
20年以上の方に贈られるもので、毎年の会員大会で推挙されています。

吉田 明弘さん



1966年に東京YMCA目黒
センターに入会されて以来、
約60年にわたり、東京YMCA
のさまざまな活動を担い、幅
広くご支援いただいた。1990
年代後半からは、杉並セン
ター運営委員長や西南地域セ
ンター運営委員などを歴任され、主に東京YMCA西
東京地域における会員活動を牽引された。とりわ
け、1997年から27年間にわたり269回に及ぶ開
催実績を誇った杉並センターの会員活動「ウォー
キング・ホリデー・荻窪（WHO）」では、中心メン
バーとして、丁寧で心のこもった運営によって多くの
参加者を迎え、活動の発展に大きく寄与された。
現在も東京西ワイズメンズクラブのメンバーとして
ご活躍され、活動の歴史をまとめる東日本区ヒス
トリアンとしても重要な役割を果たされた。

香取 良和さん



1981年に東京YMCA江東セ
ンターに入会。2000年代以降
は、江東センター運営委員、東
地域センター運営委員を歴任さ
れたほか、2003年に発足した
「会員部」の草創期には、会員
部運営委員としてもご尽力いた
だいた。また、2005年からは約20年にわたり、学
校法人東京YMCA学院の評議員を務められ、江東
幼稚園をはじめとする学校法人の運営に対して、さ
まざまなご助言をいただいた。さらに、東京YMCA
が江東区で事業を展開するにあたり、江東区との橋
渡し役も含め、幅広くご支援をいただいた。都立木
場公園の川沿いに花を植える「チャイルドガーデン」
の活動においては、中心的なメンバーとして継続的
にご奉仕された。現在も、東京江東ワイズメンズク
ラブのメンバーとしてご活躍されている。

赤△三角

私のYMCA
Aとの出会い
は、東京YM
CA社会体育
・保育専門学
校に入学した
ことでした。
実習生とし
て、またボラ
ンティアリー
ダーとして
水泳クラスや
野外活動に関
わる中で、現
場に立つディ
レクターの姿
や、子どもた
ちの笑顔に大
きな魅力を感じ
たことを覚えて
います。▼現在
は、2年前に開
設されたウエル
ネスガーデン品
川御殿山で水泳
クラスを担当し
ています。「YM
CAのプログラム
を通して、心が
満たされる人
が一人でも増
えるように」。そ
んな思いで、日
々を重ねていま
す。そして、子
どもたちの「や
ってみたい」や
「できた」とい
う気持ちに寄
り添い、その変
化に立ち会える
ことに喜びを感
じる毎日です。
うまくいきな
いことも多々あ
りますが、時
には悩まな
がら、関わる
人から学び
続けることは
今も大切に
しています。現
場で積み重
ねてきた出会
いや経験が、
私の大きな
力になっています。
▼この場所
が、誰かにと
って安心して
過ごせる、心
が豊かになる
居場所となる
ように。これか
ら、目の前の
一人ひとりと
向き合いなが
ら、挑戦する
気持ちを忘れ
ずに歩んでい
きたいと思っ
ています。
(ウエルネスガ
ーデン品川御
殿山AD 澤村
奈緒)



今、子どもたちを取り巻く環境には大きな格差があり、「あたりまえ」の体験ができない子どもたちが少なくありません。YMCAは、140年以上にわたり、子どもと若者の成長を支えてきた。

野外活動やグループ活動、仲間とのつながりを通じて、子どもたちが「自分らしくいられる場所」「誰かとつながれる安心感」を持てるよう、活動を続けています。しかし、こうした体験は、支援がなければ届かない子どもたちが多く存在します。特に近年は、体験格差・孤立の問題が深刻化しており、早急な支援の強化が求められています。

そこで、「誰もが気軽に参加できる応援の形」として立ち上げたのが、クラウドファンディング



応援サポーター
詳細はこちら

野外活動やグループ活動、仲間とのつながりを通じて、子どもたちが「自分らしくいられる場所」「誰かとつながれる安心感」を持てるよう、活動を続けています。しかし、こうした体験は、支援がなければ届かない子どもたちが多く存在します。特に近年は、体験格差・孤立の問題が深刻化しており、早急な支援の強化が求められています。

「YMCA子ども未来応援サポーター」スタート!

すべての子どもに、豊かな体験と成長の機会を

2025年度会員部運営委員

YMCAの会員を代表して各種活動を企画、運営し、会員増強なども担うのが「会員部運営委員」です。委員は毎年の会員大会で推挙され、任期は一年。今年度は以下の方々に委嘱されました。

【再任10人】

上田晶平 郷田典子 小口多津子 菰渕光彦 榊原正人
鈴木雅博 中村周三 並木 真 蒔田敏雄 山口和彦

【新任4人】

東矢高明 長谷川あや子 本川 悦子 綿引 康司

※他に、以下7人の職員が加わり、合計21人で運営してまいります。

愛洲久美子 井口 真 大津桃子 小野 実 中里 敦
堀 雄二 松本数実

【退任5人】 *任期満了

小原史奈子 藏知 浩 須田哲史 東條めぐみ
御園生好子

ボランティア表彰

東京YMCAは、昨年中に活躍された会員や学生ボランティアを「ボランティア・オブ・ザ・イヤー」として選出し、「会員大会」の席上で感謝とともに表彰しています。今年度は、下記の方々が受賞しました。

Volunteer of the Year

小原武夫さん

温かなまなざしで寄り添い続ける



南センターのペンキ塗りをリーダーたちと（写真前列中央が小原さん）

お子様が東京YMCAのキャンプに参加されたことをきっかけに、東京YMCAの会員となられた小原さん。その後は、ボランティアや東京世田谷ワイズメンズクラブの一員として、さまざまな形で活動に携わり、長年にわたり東京YMCAの歩みを支えてくださいました。

2003年に新たに発足した「会員部」では、設立当初から2019年まで運営委員を務め、その間、委員長を3回担われました。会員活動がより活発になるよう尽力され、会員部の発展に大きく寄与されています。特に南コミュニティセンターの会員活動を牽引され、「YMCAすずらん会」（歌の会）にも20年以上にわたり継続して取り組んでこられました。

2011年の東日本大震災後には、震災復興タスク委員長としてご尽力くださり、ご自身も石巻や女川に足を運ばれて「YMCA歌の広場」のボランティアに参加されました。世田谷区内にある「YMCA保育園ねがい」では、2019年の開園当初から季節ごとに草花の植栽を行い、園児たちに自然の豊かさや季節の移ろいを届けてくださっています。

そのほか、チャリティーランをはじめとする各種チャリティープログラムにも継続的にご協力いただき、常に東京YMCAの諸活動を力強く支えてくださっています。



イベントで挨拶をする小原さん（中央）

Youth Volunteer of the Year

※カッコ内はキャンプネーム ◆ボランティア経験で得たこと

石井遥翔さん（ジェット）／江東センター



キャンプやイベントに積極的にに関わり、中心的な役割に。自ら楽しみながら周囲を巻き込み、良好な雰囲気の醸成に尽力しました。◆「活動やキャンプを仲間と作り上げていく中で、自分の思いを伝えること、主体的に動いていくことを意識するようになりました。一緒に考える、一緒にチャレンジすることが大切だと思っています。」

稲垣賢さん（まー）／多文化共生スペース▽（さんかく）



社会人になってからYMCAと出会い、「食事の会」など様々な活動に参加。南センターから多文化共生スペース▽（さんかく）に変わる過度期を共に乗り越え、支えてくれました。◆「活動では、人に頼むこと、協力を仰ぐこと、一緒にやるのがたくさんあり、共に過ごす中で「尊重すること」を実感してきました。現在仕事でチームリーダーをしていますが、人を信じて任せられるようになったと思います。」

並木暖佳さん（よっしー）／山手センター



強い意志と柔軟な思考、仲間を尊重する姿勢により、活動の中心に。24年度は最高学年として全体をまとめ、新たなことにも果敢にチャレンジし、模範となる姿を示しました。◆「YMCAでは挑戦が失敗に終わっても、自分を否定されることはありませんでした。その経験から、挑戦することに躊躇がなくなり、何とかなる、自分は大丈夫と思えるようになりました。」

原捷人さん（ウイナー）／山手センター



4年生の夏からのボランティア開始ながら、キャンプや定例野外グループで活躍。子どもたちに真摯に寄り添い、持ち前の明るさでリーダー間の連携を促進しました。◆「リーダー会は話しやすい雰囲気があり、人前での発言が苦手な自分も意見が出せました。その体験が重なって自信がつき、今は自分からオープンに人と関わるようになりました。」

「外国にルーツのある子どもたち」に広がる支援の輪

日本で暮らす「外国にルーツのある子どもたち」は、言葉や制度の壁により孤立しやすく、将来に不安を抱えることも少なくありません。そうした子どもたちが安心して自分らしく過ごせる居場所をつくり、体験や挑戦の機会を届けるために、チャリティーイベントとクラウドファンディングを実施しました。

チャリティーイベント

『なにわシーサー's』漫才&トークショーを開催

会員部運営委員長 ^{まきた} 時田敏雄



『なにわシーサー's』の漫才とトークに、笑いが絶えなかった会場。右端に立つのは、当日の進行役を務めた時田敏雄さん

英さんと私が、教会学校小学科からの幼なじみであることから生まれました。

結成当初から何度かお二人の漫才を観てその「楽しさ」と「パワー」を感じ、山手センターで公演をとの願いを会員部役員会で提案。東京YMCAが主催、私が勤める公益社団法人日本児童青少年演劇協会が協力という形で実現し、当日は70人を超える参加者にご来場いただきました。

本番は、息ピッタリの絶妙な漫才はもちろん、コンビ結成に至った経緯や思い、出演映画や7月に恵比寿・エコー劇場で開催予定の「漫才ミュージカル」の話、「外国ルーツの子どもたちへの支援」というキーワードに対する考え・思いなど、素晴らしいトークも伺えました。最前列でおおいに盛り上がっていた小学生とのやりとりからも、お二人の温かい人柄が伝わり、それが会場に広がっていました。

参加者は、YMCA会員やメンバー、教会や演劇関係者などバラエティーに富み、今回初めてYMCAに足を運ばれた方も多数いました。伊原剛志さんは、国際ホテル専門学校生の「就職先」掲示を見て「すごいホテルに就職しているんですね」とおっしゃっていました！

YMCAの持つさまざまな力や魅力を、外に向かってアピールできる場として、また、子どもたちに観る／表現する大切さを伝える場として、このようなイベントを続けていくこともYMCAの大切な働きの一つではないかと感じたひと時となりました。どの年代でも〈夢〉を持って生きる！大切なメッセージをいただきました！！

参加費と当日の募金により集まった合計約7万円は、「外国にルーツのある子どもたち」のプログラムに用います。ご協力ありがとうございました。



観客からの質問に気さくに応じ、和やかな交流が生まれる場面も

クラウドファンディング

目標達成！感謝報告

2月1日から4月18日まで、「外国にルーツのある子どもたちを支援するクラウドファンディング」を実施し、149人の皆さまより311万5千円のご支援をいただきました。目標額の250万円を大きく上回る結果となり、心より感謝申し上げます。

このご支援により、子どもたちを東京YMCAのサマーキャンプへ招待するほか、週末の体験活動や学習・居場所づくりなどを行ってまいります。

今回のクラウドファンディングは、支援だけでなく現状や課題、YMCAの取り組みを広く知ってもらうことも大きな目的でした。「英語が話せないと思われがちですが、実際は「やさしい日本語」での対応を望む人も多くいます。困っていることに気づくこと—それが、誰もが生きやすい社会への第一歩になると信じています。

約45年前、東京YMCAとニューヨークYMCAが協力し、ニューヨーク近郊で在米日系人を対象とした活動を始めました。その活動の参加者の一人は、「外国人向けのプログラムに助けられた」という思いから、今では東京YMCAで「外国にルーツのある子どもたち」を支援しています。また、初回のサマーキャンプ参加者がボランティアを希望するなど、支援の輪は広がっています。

今後も、皆さまからのご支援と期待を力に変えて、子どもたちにとって安心できる体験の機会を丁寧につくっていききたいと思います。（広報室）

クラウドファンディングのプロジェクトページは今後も残り、情報が更新されます。

[プロジェクトページはこちら](#)



東京とNY フロストバレー便り

この春、東京—フロストバレーYMCAパートナーシップキャンプの同窓生により、社会人として活躍するユース世代が、高校生の進学や就職の悩みや相談に応える企画が実施された。当日は3人の同窓生がパネラーとして参加。アメリカで育ち、現在もアメリカでキャリアを重ねている3人から、たくさんのアドバイスが語られた。高校生からは「もし17歳に戻れたら何をしますか？」「エッセーは何を書きましたか？」「どうしてアメリカの大学を選んだのですか？」など興味深い質問も多く、フロストバレーが共通点の集まりならではのアドバイスや回答がとても印象的だった。今回は日本で活躍している同窓生が登壇予定である。

もう一つ、フロストバレーYMCAの寄付開発部の新しいユニークな試みを紹介したい。キャンプ同窓生たちが各地でキャンプを支援する、Frost Rally（フロストラリー）- Rally for the Valleyだ。さまざまな場所で同窓生たちがイベントを企画し、フロストバレーのことを想いながら、大好きな仲間と楽しむ。その益金の一部を寄付するのだ。担当スタッフは、「フロストバレーで作られた思い出は一人ひとり異なるが、私たちに共通しているのは“ここで作られた”ということ。フロストバレーが心の中で特別な位置を占めているのは、私たちがユニークな存在でありながら、フロストバレー・ファミリーという特別なコミュニティに属しているという共通点があるからだ」と熱く語る。近い将来、全米はもちろん、世界中で小さなイベントが開催され、SNSを通じてラリーの様子を分かち合うのが目標である。

社会学者のレイ・オルデンバーグは、家庭でも学校でも職場でもない、ゆったりとリラックスできる居心地の良い第三の場所（サードプレイス）を持つことの重要性を論じている。東京パートナーシップのキャンプでは、文化と文化の狭間で育つ子どもやリーダーが集まり、1～2週間を大自然の中で過ごす。仲間と励ましあい、笑いあい、友情を育む。キャンプは、生涯にわたる良き仲間に出会える場所である。多くの同窓生が実現しているように、特別なコミュニティとして、関わり続ける存在になって欲しいと思う。

いよいよサマーキャンプが始まる。安全に留意し、また「来年も参加したい！」と思ってもらえるような「心地よいキャンプ」をリーダーと共に作っていききたい。



Frost Rally — Rally for the Valleyのロゴ

（東京—フロストバレーYMCAパートナーシップ 星住秀一）



野の花、空の鳥

東京YMCA総主事

星野 太郎



あなたの若い日に

YMCAに入職して間もない頃、青少年活動のスタッフ研修で「行動の変容に気づく」というテーマがありました。グループ活動やプログラム体験を通して、参加者の自己や行動がどう変わったかを、指導者としてきちんと観察しよう。そして、その変化を保護者と共有することが大切だという内容でした。なるほど、体験の効果をしっかり捉えることは重要だし、それが日常に活かされることは、体験の直後に見える「変容」だけでは語りきれない。そこで体験した内容を、60年前、キャンプ直後の少したくましくなった我が子の笑顔に、この方のご両親はきっと喜ばれたことでしょう。しかし、この方が語られた感謝は、長い年月を経ても良い思い出です。

が時を超えて人の心に働きかけるということを教えてください。あなたに、あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ（旧約聖書（口語訳）の言葉です。若い時にYMCAに出会い、そして神様に出会うこと。それはその時には気づけなくても、その人の人生に静かに意味をもち続ける、とても大切なことだと私は信じています。今準備しているプログラムが、時を越えて未来を育む大切な種まきであることを心にとめて、この夏を迎えたいと思います。

いんぷおめーしょん INFORMATION インフォメーション

■早天祈祷会(7月・8月)■

会員有志が聖書について自分の考えなどを語る「奨励」の後、皆で祈り讃美歌を歌います。クリスチャンでない方もお気軽にどうぞ。

日 時：2025年7月1日(火)
7:00～8:00

奨励者：青木一芳氏(千葉YMCA
常議員会議長・理事)

会 場：オンライン／山手センター
問合せ：会員部(03-6278-9071)

日 時：2025年8月1日(金)
7:00～8:00

奨励者：松本竹弘氏(東京YMCA)

副総主事)

※会場、問合せ先は7月と同じ

●●● 会員のご案内 ●●●

「会員」とは、東京YMCAの主旨に賛同し、会費によって活動を支援くださる方のことです。YMCAは、青少年の健全な成長をサポートし、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるために、より多くの会員と共に活動していけることを願っています。



詳細はこちら

幼児 定例野外グループ

公園や河原などに出かけ、季節を感じながら自然の中で思いきり遊ぶ、月1回のグループ活動です。

同年代の仲間と協力し、励まし合う中で、社会性や思いやりの心が育ちます。活動には18歳以上のボランティアリーダー(通称「リーダー」)が参加し、一緒に遊びながら子どもたちをサポートします。
※年少児は9月より体験・入会が可能です。



募集中の定例野外グループ(幼児)

- くれよん(江東コミュニティセンター)
- にこにこクラブ(山手コミュニティセンター)

詳細は
ホームページで

ワイズコーナー

Y'S MEN'S CLUB

Vol.28

世界につながるワイズメンズクラブ

ワイズメンズクラブ国際協会は、世界82の国と地域にクラブが存在する国際的な奉仕団体で、アフリカ、アジア太平洋、カナダ/カリブ海諸国、ヨーロッパ、インド、韓国、ラテンアメリカ、アメリカ合衆国の8地域(Area)に、会員数20,171人(2024年8月)を擁しています。そもそもは、アメリカ合衆国オハイオ州のトレドYMCAの応援団として発足。以来、YMCAのパートナーとして世界に広がり、連綿と100年以上の歴史を刻んできました。

日本は、アジア太平洋地域に属しています。この地域には14の国と地域が所属し、さらに、オーストラリア、東日本、西日本、フィリピン、南東アジア、スリランカ、台湾の7区(Region)に分かれており、南東アジア区にはネパール、香港、マカオ、カンボジア、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、タイが含まれます。会員数は、3,073人です。

日本でのホットな話題は、8月1日～3日に熊本で開催されるアジア太平洋地域大会です。田上正実行委員長(次期アジア太平洋地域会長)を中心に現在準備中で、熊本YMCAにも全面的に支援をいただいております。同時開催のアジア太平洋地域ユースコンボケーション(国際交流と世界の問題について考える青年の集い)は、阿蘇YMCAキャンプを会場にして行われ、海外からの参加者が多数訪れます。世界につながるワイズのメンバー、ユースをYMCAと協働で迎える日を楽しみにしています。

直前アジア太平洋地域会長 利根川恵子
(川越ワイズメンズクラブ)



ミャンマー地震救援アピール

第39回インターナショナル・チャリティーラン



「東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン」は、ランナーが参加費で障がいのある子どもたちを支援すると共に、“障がい”への社会的な理解と関心を高めることを目的とする駅伝大会です。
この大会の参加チーム、大会当日ボランティアを募集します。

参加チーム募集

- 【日 時】2025年9月27日(土)
10:00～14:00
- 【場 所】都立木場公園内特設コース
- 【参加費】1チーム 10万円
- 【競技ルール】約1.3kmのコースを1人1周、
1チーム6人で6周します
- ※詳細は、決まり次第ホームページに掲載します

詳細は
ホームページで
ご確認ください

ボランティア募集

- 【募集内容】コース誘導・沿道整理など
- 【時 間】①8:00～15:00 ②9:00～15:00
③10:00～15:00



文化スポーツ教室 『わくわく! 自然ツアー!! ～生き物の不思議～』

朝の涼しい時間帯にわくわくビレッジの自然の中で遊んでみない?
香りで自分を守っている植物、地下にお城を持っている動物、シャボン玉の斬新な遊び方。
五感を使ってこういった身近にある生物の不思議な一面を観察しよう。
最後は自然物のクラフトも作れるよ!

- 開催日 7月20日(日)
- 時 間 9:00～10:30
- 対 象 どなたでも
(小学生以下は保護者同伴)

- 定 員 40人
- 持ち物 汚れても良い服装、水筒
- 費 用 1人:660円
- 申込み お電話又はフロントにて

詳しくはお電話またはフロントにてご確認ください

高尾の森わくわくビレッジ

☎ 042-652-0911

〒193-0821 八王子市川町55
www.wakuwaku-village.com

高尾の森わくわくビレッジはYMCAスタッフが運営しています